

無装荷搬送方式の進歩

Progress of the non-loaded cable carrier systems

1950

1960

1970

真空管からトランジスタへ

F-6方式(1939)
伝送周波数帯域: 3 ~ 27kHz
通話路数: 6ch
中継間隔: 50km
側回線方式

S-18方式(1952)
伝送周波数帯域: 32 ~ 104kHz
通話路数: 18ch
中継間隔: 25km
F-6方式の未利用帯域に重畳
(F-6方式を含め合計24CH)

F-24方式(1956) 伝送周波数帯域: 12 ~ 108kHz
通話路数: 24ch
中継間隔: 25km

F-60方式(1958) 伝送周波数帯域: 12 ~ 525kHz
通話路数: 60ch
中継間隔: 17km

重信方式

X-60方式(1957)
伝送周波数帯域: 120 ~ 360kHz
通話路数: 60ch
中継間隔: 12.5km
S-18方式またはF-24方式の
実施区間に重畳する方式

X-60Tr方式(1963)
X-60方式のトランジスタ化

アナログ同軸伝送方式

C-4M方式(1956)
通話路数: 960ch

C-12M方式(1962)
通話路数: 182,700ch

短距離搬送方式

T-12方式(1954)
通話路数: 12ch

T-12S方式(1956)
通話路数: 12ch

T-12SR方式(1964)
通話路数: 12ch